

# いずみ高校の活性化・特色化方針

(令和3年度～)

## 1 学校基本情報

課程	全日制	学科	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">生物系</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境系</div> </div>	生物生産科 生物サイエンス科 生物資源化学科 環境デザイン科 環境サイエンス科 環境建設科	生徒数	(男)369 (女)313	計 682				
ホームページ	http://www.izumi-h.spec.ed.jp/										
アクセス	大宮駅西口から徒歩25分又はバスと徒歩で11分										
教育課程等の特徴	生物系・環境系それぞれ120名を募集。入学後に自分の興味・関心を確認してから専門的に学ぶ学科を決定し、2年次からそれぞれの学科の専門科目を学ぶ。 2年次で週8時間、3年次では週12時間分の「選択科目」が用意され、生徒が自分の興味や関心、進路希望に応じて選ぶことができる。										
活躍が顕著な部活動	少林寺拳法部：インターハイ関東大会に出場、入賞（令和元年度） ○ 陸上部：インターハイ南部地区予選走高跳優勝・県予選4位・関東大会出場、インターハイ県予選円盤投げ5位・関東大会出場、県高校新人陸上大会棒高跳び6位・関東大会出場、県高校駅伝出場（令和元年度） 卓球部：シングルス県16位・ダブルス県16位・団体県8位（令和元年度） 国家技能検定2級とび職種兼技能五輪全国大会埼玉県予選優勝、技能五輪全国大会に出場（沖縄大会）（平成30年度）										
特色ある学校行事	生物生産科・生物サイエンス科・生物資源化学科・環境デザイン科は、総合教育センター江南支所での宿泊研修を実施。農業クラブで多岐にわたる活動を実施。 環境サイエンス科・環境建設科は、長瀬、小川での宿泊実習を実施。 ○ 本校自慢の中庭に電飾を施してライトアップし、いずみ高校同窓生を招待して母校に親しみを感じてもらおう企画「いずみホームカミング」を実施。										
家庭・地域との連携	各学科の特色を生かし、地域の絆を高めるため地元小学校との交流事業を実施。 職業観・勤労観を育成するためインターンシップを実施。 各学科に関係する専門技術の向上を図るため、プロフェッショナルから直接指導を受ける実践的な授業を実施。										
進路	状況	四大	37人	短大	9人	専門	70人	就職	85人	その他	8人
	傾向	○ 進学は推薦入試によるものがほとんどで、AO利用も増えてきている。 ○ 就職は求人数が1,771件（有効求人倍率：20.3倍）、就職希望者内定率は100%。									

(生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3月卒業生の実績値)

## 2 入学者選抜情報

< 本校が求める生徒 >

生物系・環境系の専門学習や環境問題に関心を持ち、行動に移せる生徒

< [詳しい入学者選抜基準はこちら](#) >

(「埼玉県公立高等学校入学者選抜における各高等学校の選抜基準」が別ウインドウで開きます)



# 県立いずみ高校 ~生徒の成長物語~

生物資源の活用及び環境の保全と創造に貢献できるスペシャリストへ

## 就職

公務員,市場系,製薬系,食品系,  
造園系,化学系,建設系,販売系,  
製造系, etc

## 進学

農業系・工業系四年制大学,  
文系四年制大学,各種短期大学,  
各種専門学校、製造系, etc

多彩な進路  
に対応!!

### 〔 資格取得 〕

危険物取扱者, 国家技能検定, etc

### 〔 高度な専門学習 〕

高大連携, 企業との連携, etc

### 国家技能検定



### 食品開発・販売



生物・環境に関する知識と各専門分野のスペシャリストとしての基礎を習得

## 3年

高度な専門知識と技術の習得  
課題解決能力・探究的思考力の育成

### 施設栽培実習



### 長瀬実習



## 2年

専門分野の基礎的・基本的な知識と  
技術の習得

生物生産科

生物サイエンス科

生物資源化学科

環境デザイン科

環境サイエンス科

環境建設科

豊富な選択科目

環境保全活動

充実した施設・設備

# 生物系

## 1年

ガイダンス機能強化で学科を選択  
生物・環境に関する意識付け

# 環境系

## 与野高校の活性化・特色化方針

( 令和 3 年度 ~ )

### 1 学校基本情報

課程	全日制	学科	普通科	生徒数	(男)561 (女)519	計 1080					
ホームページ	http://www.yono-h.spec.ed.jp/										
アクセス	J R 埼京線 与野本町駅下車 徒歩 10 分										
教育課程等の特徴	<p>週当たりの授業時間は 1 年生が 32 時間、2・3 年生が 31 時間。3 年間を通じて、理解度・定着度を高めるための工夫を行い、難関大学の入試にも対応できる教育課程を編成</p> <p>1・2 年生は必履修科目を中心に学び、特に 1 年生の英語表現 は 20 名の少人数授業、2 年生の数学 は習熟度別授業を展開</p> <p>3 年生は進路に応じて 5 類型 ( 私立文系、国公立文系、国公立理系、私立理系、看護医療・栄養系 ) に分かれて授業を展開 ( 選択授業を多数設定 )</p>										
活躍が顕著な部活動	<p>主な実績 ( 過去 3 ヶ年 )</p> <p>【全国・関東大会出場・入賞】 フェンシング部、弓道、軽音楽部、吹奏楽部、バトン部、書道部、美術部</p> <p>【県大会出場・入賞等】 野球部、サッカー部、陸上部、剣道部、男女バスケットボール部、バレーボール部</p> <p>男女ソフトテニス部、男女硬式テニス部、男女パドミントン部、新体操部、卓球部、科学研究部、演劇部など</p>										
特色ある学校行事	<p>生徒会行事は、行事毎に実行委員会が立ち上がり、企画を運営</p> <p>体育祭、文化祭、三送会が三大大行事</p> <p>【体育祭 ( 5 月 ) 】全校生徒が 4 ブロックに分かれて優勝を競います</p> <p>【文化祭 ( 9 月 ) 】全クラスと全文化部が工夫を凝らした企画で来校者を迎えます</p> <p>【三送会 ( 2 月 ) 】1・2 年生が心を込めて 3 年生を送り出します</p>										
家庭・地域との連携	<p>与野本町小学校との交流 ( 夏休み及び 2 学期の年 2 回交流会を実施 )</p> <p>P T A 主催講演会 ( 様々なジャンルで活躍された方々の講演 )</p> <p>山本シュウ ( ラジオ D J ) 渡部陽一 ( 戦場カメラマン ) 等</p> <p>学校づくり懇話会 ( 生徒・保護者・地域の方々が本校の発展について話し合う )</p>										
進路	状況	四大	258 人	短大	14 人	専門	57 人	就職	8 人	その他	27 人
	傾向	<p>現役での大学・短大の進学が 75% で、専門学校のうち 10 名が看護・医療系に進学しています。就職者のうち 4 名は公務員として海上保安庁や埼玉県などに採用されました。</p> <p>&lt; おもな大学合格実績 &gt; ( ) の数字は人数</p> <p>国公立大学 ( 1 ) 早慶上理・G M A R C H ( 28 ) 成成明学國武 ( 10 ) 日東駒専 ( 94 )</p>									

( 生徒数 : R2.5.1 現在、進路は R2.3 月卒業生の実績値 )

### 2 入学者選抜情報

<p>&lt; 本校が求める生徒 &gt;</p> <p>目標を決め、その実現に向けて一生懸命努力しようとする意思を持っている生徒</p>
<p>&lt; 詳しい入学者選抜基準はこちら &gt;</p> <p>( 「 埼玉県公立高等学校入学者選抜における各高等学校の選抜基準 」 が別ウインドウで開きます )</p>



# 県立与野高校

～ 生徒の成長物語 ～

## 二兎を追い、獲得する

普通科 男女共学 1学年・9クラス

穏やかで落ち着いた雰囲気の校風

8割以上の生徒が大学進学を目指す

進路実現を目標にしっかり勉強を

自主・自律の精神で部活・行事に

### 3年間での成長の姿

学校生活、部活動等を通して健康管理、スケジュール管理、相手を理解して自分の意見が言える力等が身につく

1年後の姿

学習活動、部活動等を通して、今の自分に必要なことを実行し、失敗しても何度も立ち向かう力が身につく

2年後の姿

進路実現、部活動等を通して多面的多角的な思考力が磨かれ、問題を自分で解決する力が身につく

3年後の姿

### 目標

3年間で身につける5つの力

自己管理能力 チャレンジ力  
コミュニケーション力・協働力  
思考力 自己実現力

進路実現

一般受験に対応できる学力の育成  
AO入試・推薦入試に3年間の高校生活での活動実績を生かす  
将来を見据えた専門学校進学・就職

### 3年間の学びのステージ

#### 《学習活動》

カリキュラムは1・1・5システム

1・2年生は必修科目を中心に学び、3年生では進路希望に応じて5つの類型に分かれて学ぶ

週末課題で家庭学習習慣の定着を図る

長期休業中の大学進学向け講習で実力アップを目指す



朝読書で幅広い知識・教養と読解力を身につける

#### 《進路指導》

スタディーサポート・模擬試験の定期的受験

GPS アカデミック等の新大学入試への対応

分野別進路ガイダンスで進路意識を高める

卒業生による合格体験発表会で将来の自分の姿を考える



#### 《生徒会活動》

文化祭・体育祭・三送会が生徒会の三大行事、生徒主体で企画・運営

1・3学期末は球技大会で盛り上がる

生徒総会では、生徒同士の意見交換がしっかりできる

#### 《部活動》

94%部活動加入率

全国・関東レベルの実績(過去3年間)

フェンシング・弓道・軽音楽  
吹奏楽・バトン・書道・美術



#### 《地域との連携》

P T A主催講演会で、様々なジャンルで活躍する方々の話を聞き、視野を広め、社会への関心を深める

与野本町小学校との交流や乳幼児ふれあい体験 (市内の各児童センター主催)への参加を通して、教育・保育に関する興味・関心を深める  
埼玉出身の三遊亭楽生師匠等が講師のスピーチ講座で、話し・伝えることの楽しさや極意を学ぶ



## けやき特別支援学校の活性化・特色化方針

(令和3年度～)

### 1 学校基本情報

種別	病弱	学部・ 学科	小学部 中学部	児童 生徒数	(男)15名 (女)13名	計28名
ホームページ	<a href="https://keyaki-sh.spec.ed.jp/">https://keyaki-sh.spec.ed.jp/</a>					
アクセス	JR『さいたま新都心駅』より、徒歩7分 JR『北与野駅』より、徒歩8分 ＊1階または2階の南玄関から入り、南エレベーターで7階へ、お越してください。 ＊駐車場はございません。公共交通手段を御利用ください					
教育課程等 の特徴	小学部・中学部があり、教育形態としては、学校に登校する『通学による指導』と、 病棟のベッドサイドに教員が訪問する『訪問教育による指導』があります。 『通学による指導』 学年ごとの『準ずる教育課程』と、学部ごとに1クラスの『重複学級』があります。 【週授業時数：25～29単位時間(学年相応標準時数)】 『訪問教育による指導』 『準ずる教育課程』もしくは『自立活動を主とする教育課程』から、指導内容を精選 して、実施しています。【週授業時数：15単位時間(1日3単位時間)】 なお、教育形態については、治療方針等踏まえた医師からの指示を基本に、保護 者・本人の了承を得て、決定していきます。					
特色ある 学校行事や 部活動	活動の充実 『病気療養中でも、活動を工夫することで、勉強や行事に取り組むことができる』 を基本に、体育祭や文化祭、修学旅行等の行事についても、病院と連携を取りなが ら、実施しています。 ICTの活用 教室で授業を受けることが難しい児童生徒は、病室で教員と学習するだけではな く、教室の友だちと同時双方向通信技術を活用して、一緒に学習できるようにして います。企業(リコージャパン)様にも御協力いただきながら、テレプレゼンスロ ボットを使用することで、病室にいる児童が、社会科見学(さいたまスーパーアリ ーナ)にも、参加しました。					
家庭・地域 との連携	復学支援会議 退院時に、医師からの要望により、復学支援会議を実施しています。原籍校から、 管理職、養護教諭、担任等に御来校いただき、医師から学校生活上の配慮事項、本 校教員から学習上の配慮事項について、お伝えする場を設定しています。 その他 全児童生徒を対象に、医師から学校生活上の配慮事項について記載した用紙を原籍 校に送付。別途、原籍校からの依頼に応じて、コーディネーター等が原籍校に巡回 相談を実施。病気療養児のスムーズな復学に向けて、支援を行っています。  ＊高校生入院時学習支援 埼玉県立小児医療センターに入院中の、埼玉県立高等学校に在籍する生徒の学習支 援をコーディネートしています。					
進路に ついて	卒業時には原籍校へ転出するため、本校での卒業とはなりません。 【＊原籍校で、地元の友達と一緒に卒業を迎えてほしいため】 なお、入院が継続する場合は、原籍校で卒業、進学先の学校に入学後、再び本校 に転入という、流れになります。					

(児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の実績)

## 2 育成方針 『つながり』を大切にした学び

本校に在籍する子どもたちは、病気療養のため、家族や地元の友だちと離れた生活を余儀なくされています。本校に在籍していても、治療や体調によっては登校することが難しい場合もあります。このような生活の中で、子どもたちに少しでも、多くの『人』と接点を持ってもらいたく、本校ではICTを活用し、『つながり』を大切にした学びの機会を多く設けています。

直接会うことはできなくても、同じ時間に同じ活動を共有することで、『友だちと一緒に』を感じられるようにしています。



病室と教室（校外学習）の『つながり』



地元の学校と本校（教室・病室）の『つながり』



『つながり』をもっておくことで、登校や元の学校に戻るときに、疎外感が少なく スムースに元の居場所に戻ることができます。